

# CASBEE埼玉県

# 評価結果

使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2014年版、CASBEE埼玉県2015年版 使用評価ソフト：CASBEE-BD\_NC\_2014(v.3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	所沢駅東口駅ビル計画(駅一体敷地)	階数	地上5F、地下2F
建設地	埼玉県所沢市くすのき台1丁目14番	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域、準防火地域	平均居住人員	0人
地域区分	5地域	年間使用時間	7,300時間/年
建物用途	事務所、物販店、工場、等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年6月 予定	評価の実施日	2016年7月1日
敷地面積	26,215 m <sup>2</sup>	作成者	東急設計コンサルタント
建築面積	21,098 m <sup>2</sup>	確認日	2016年7月11日
延床面積	57,759 m <sup>2</sup>	確認者	東急設計コンサルタント



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> 温暖化影響チャート	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>BEE = 1.2</b> ★★★★★</p> <p>S: A: B+: B: C:</p>	<p>★★★★★</p> <p>30% 60% 80% 100% 100%超:</p> <p>標準計算</p> <p>建設 修繕 更新 解体 運用 オンサイト オフサイト</p> <p>参照値 100%</p> <p>建築物の取組み 38%</p> <p>上記+ 以外の 38%</p> <p>上記+ 38%</p> <p>0 46 92 138 184 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR3 敷地外環境</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b> Qのスコア = 2.7</p>		
<p><b>Q1 室内環境</b> Q1のスコア = 3.1</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b> Q2のスコア = 3.0</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b> Q3のスコア = 2.0</p>
<p><b>LR 環境負荷低減性</b> LRのスコア = 3.6</p>		
<p><b>LR1 エネルギー</b> LR1のスコア = 4.3</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> LR2のスコア = 2.9</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> LR3のスコア = 3.4</p>

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <p>建物内部に自由通路・南北通路を設ける計画とし、回遊性を高めた計画とするとともに、南北通路には膜屋根を設け採光・通風等の自然エネルギーを取り入れた計画としている。</p>	<p><b>その他</b></p> <p>特になし</p>	
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>駅前商業施設としての公共性の高い計画としている。店舗部分については、将来的な可変性を見込んだ設計を行っている。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>建物コンセプト・内装計画と照明計画の一体化の検討など。サービス機能の向上に配慮した計画としている。</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>既存改札と新改札をつなぐ吹抜けの南北通路を計画し、建物の回遊性を高め、快適な公共空間に配慮した。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>太陽光発電の採用などエネルギーの効率化に配慮。南北通路の屋根を、膜屋根で計画することで明るい空間とするとともに、通風性にも配慮した。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>躯体と仕上材が容易に分別可能となっている等、資源マテリアルの活用に配慮した。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>地区計画に準拠し、本計画による周辺への影響を最小限に抑えた。</p>

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される